

# コロナ禍の保健師活動を振り返る 札幌市の取組

・札幌市北区保健福祉部健康・子ども課 石川 珠美

# 札幌市の概況

\* 令和4年（2022年）に市制施行100周年を迎えた人口190万人を超える政令指定都市で北海道の人口の約3割を有する。

\* 転入超過数は、全国1,719市町村のうち、さいたま市、横浜市に次いで多く、65歳以上の転入超過数は最多。

\* 道都として、国内外から観光客が集まるなど、人流が盛んな都市で、全国に先駆けて感染拡大が生じた。

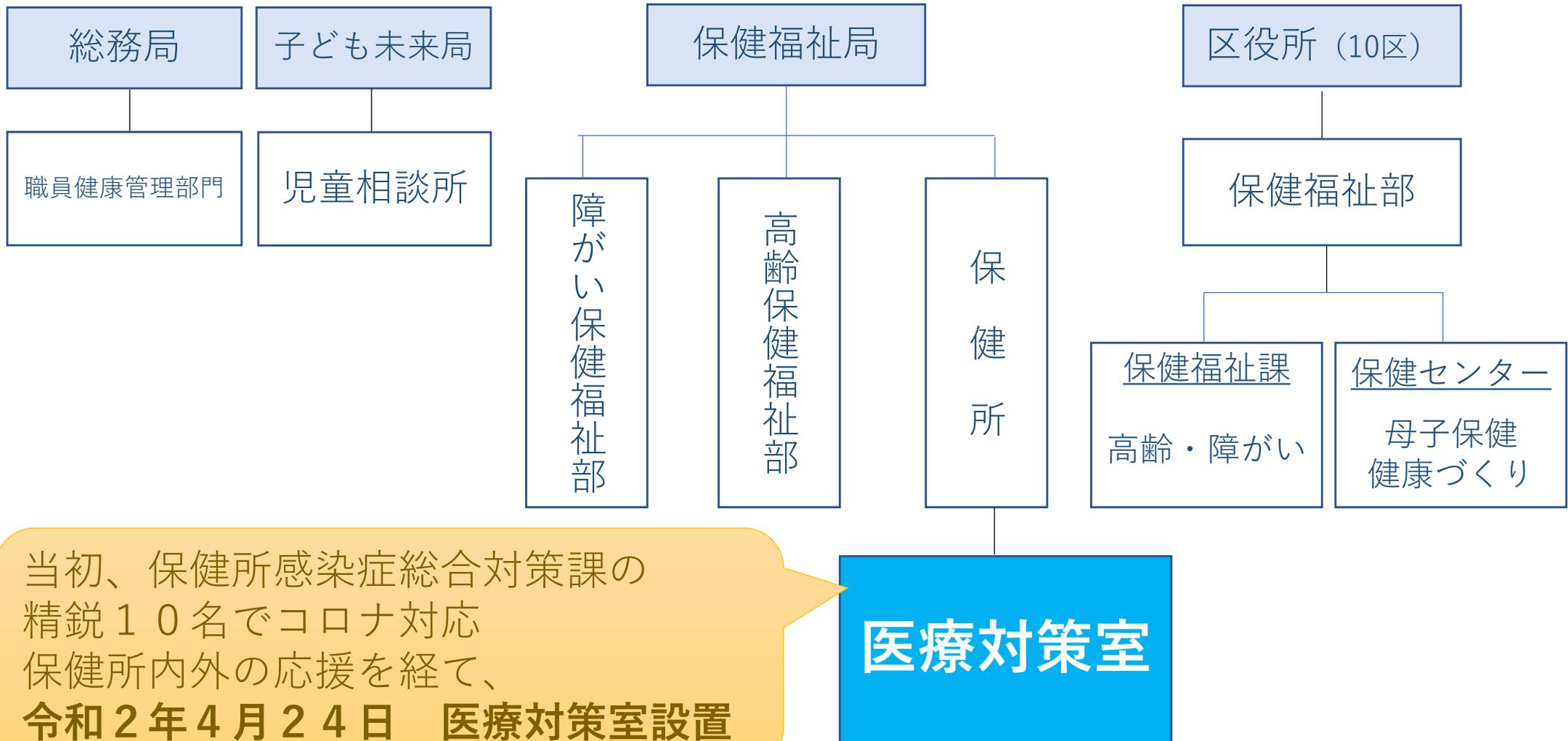
\* 市内には10の行政区があり、それぞれ地域の特性を生かしたまちづくりを行っている。

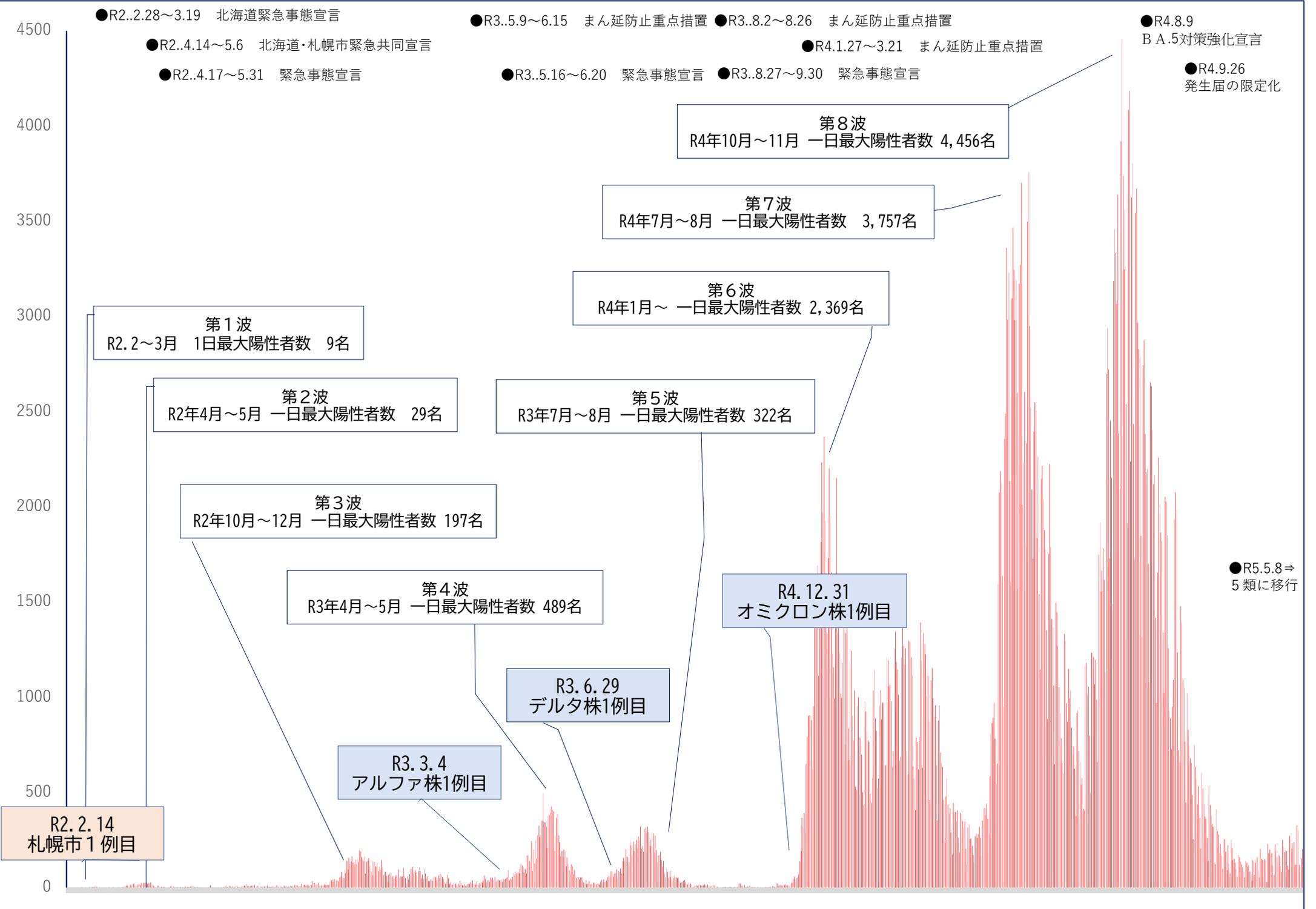


# 札幌市の保健師配置

保健師総数 270名

うち82%が区役所に配置「高齢・障がい」と「母子・健康づくり」を業務分担





# 医療対策室の機構及び職員体制

R2

- **対策室** 兼務職員と応援職員で構成
- **区保健師** 各区保健師が1～4週間のローテーションで対策室応援

R3

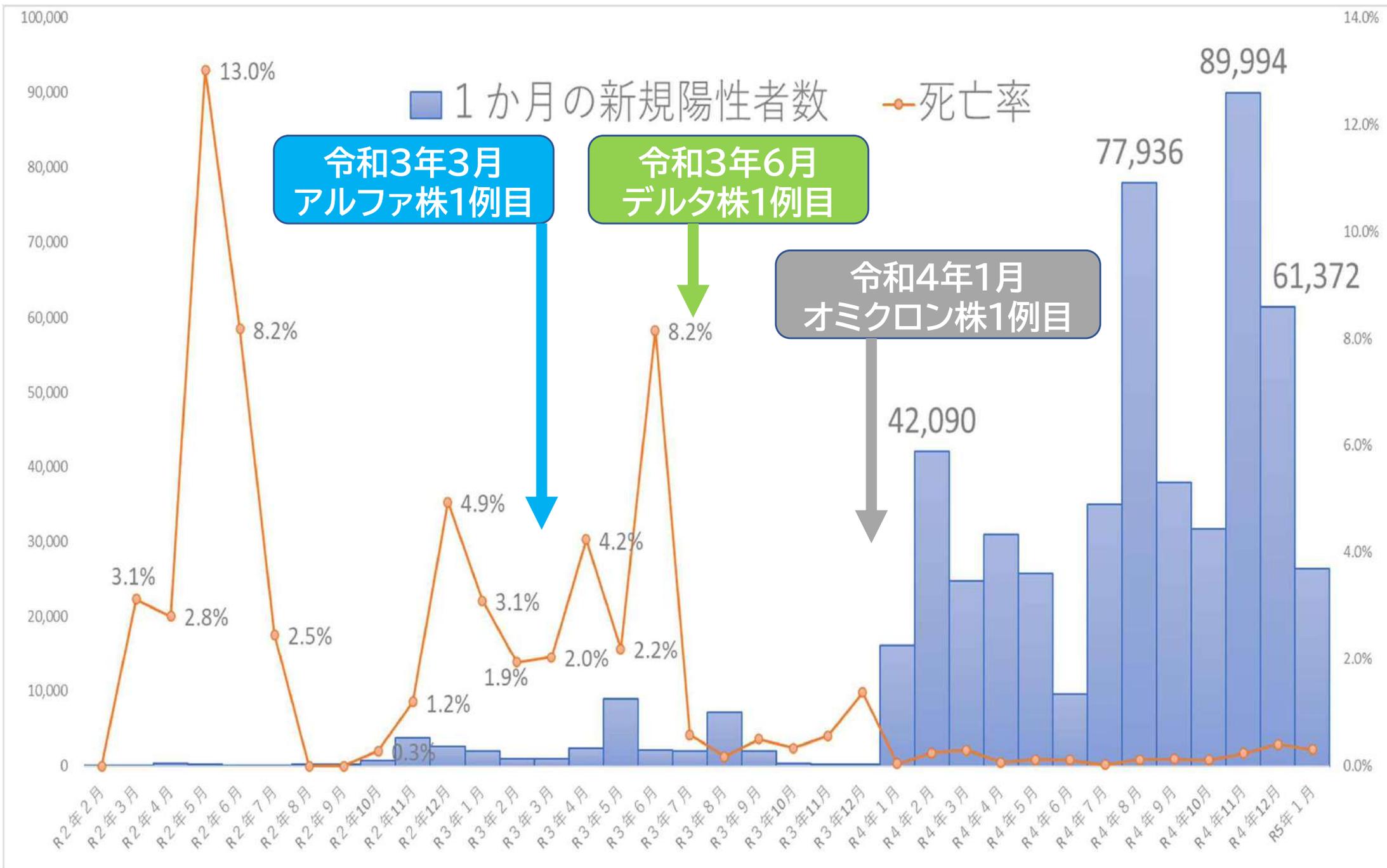
- **対策室** 機構定数化され専任職員配属（170名、うち保健師12名）派遣職員の活用も進むが、応援職員なしでは対応できず最大1,000名規模の応援体制を組んだ
- **区保健師** 通常業務を行いながら、各区に一時的、集中的に区コロナ対策室を設置し、自宅療養の健康観察と疫学調査を担当

R4

- **対策室** オミクロン株の特徴を踏まえて業務の重点化、自動化、委託事業を増やし、応援職員ゼロを目指した
- **区保健師** 対策室業務なし。感染対策に留意して通常業務が実施できるようになってきた

R2.2月頃から令和3年度は、乳幼児健診、育児教室などの母子保健事業、がん検診、住民集団健診、地域の健康教室、介護予防教室、高齢者のつどいの場、セルフケアグループ、交流イベントなど、人が集まる事業は休止と再開を繰り返しその連絡調整にも時間を要した。集団の事業が休止となった分、感染対策に留意して家庭訪問等による個別支援を継続

# 月ごとの陽性者と死亡率の推移

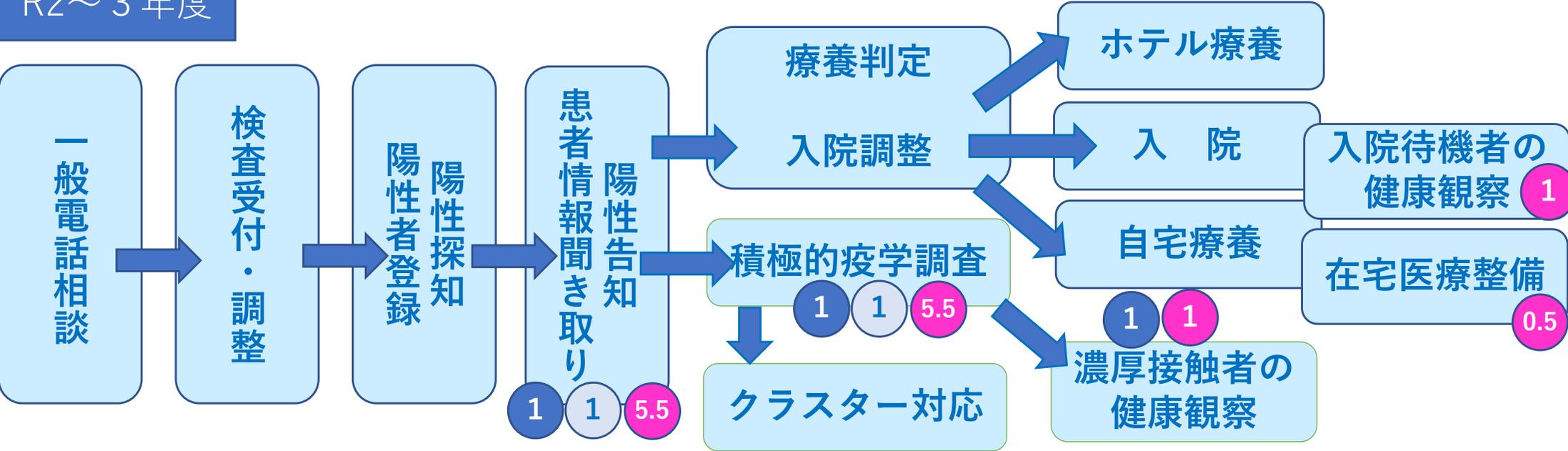


# 医療対策室の業務分担

保健師配置

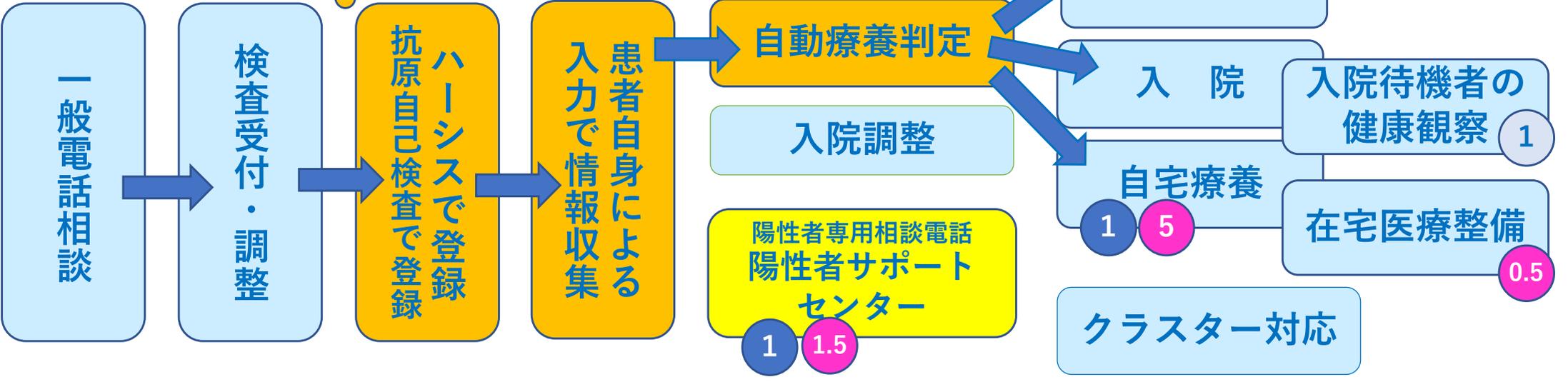


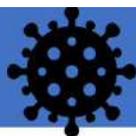
R2~3年度



R4年度

これまで人力で行ってきた陽性探知・登録  
陽性者情報聞き取り・療養判定をSMSや  
アプリなどを活用して自動化





- コロナ対策は365日体勢なので、交代で週休2日  
にすると係全員が集まる日がない  
ホワイトボードでタスク整理

①通常	8 : 45 ~ 17 : 15
②中番	9 : 30 ~ 18 : 00
③遅番	11 : 00 ~ 19 : 30
④超遅	13 : 00 ~ 21 : 30

- とにかく職員の人数が多い  
専任職員、任期付き職員、会計年度職員、派遣職員、**応援職員**（最大120人の事務職員）、委託先職員

全庁的な応援体制に感謝！！ 通常業務を抜けて応援に来ているので、最小限の人数にすること、業務が落ち着いたなら順次所属にお帰りいただくこと、不安なく効果的に業務にあたるようオリエンテーション動画、マニュアル整備、シフト調整、毎日の業務連絡

- 各班の人数が多く、従事場所が離れている

保健所内（陽性探知・入院調整）、Aビル(検査)、Bビル(自宅療養) Cビル（疫学調査）

毎朝リモートミーティングで情報共有。顔を知らない相手と電話やメールで相談や依頼をするので、繁忙期の疲弊時には感情的になることも・・・ 落ち着いている時期に連携が多い班とface to faceの打ち合わせ、保健師同士の短期ジョブローテーションを実施

# 難しかったこと 感染拡大は防げるのか

## 個別課題から地域課題への視点及び活動の展開

- 従来株からデルタ株まで、多くの職員で積極的疫学調査を実施。体調の悪い患者から発症前後2週間の行動を聞き取り、感染源、濃厚接触者を探索

### \* 感染源探求から注意喚起につなげる

行動の共通項に気づき、つなぎ合わせるところまでを患者調査班が実施、風評被害や差別に留意しながら注意喚起(普及啓発) することを戦略班や疫学調整班が担当

個人的にはいまだ答えが出ないところです

- ・ 地区担当保健師が地域のネットワークを生かして普及啓発できるとよいのではないか
- ・ いやしかし、そもそも一部団体への注意喚起の途中で全体に感染が広がるのではないか
- ・ 特殊な事案としてではなく、共通する感染対策として正しい知識を広く提供でよいか

- 従来株からデルタ株まで、多くの職員で積極的疫学調査を実施。体調の悪い患者から発症前後2週間の行動を聞き取り、感染源、濃厚接触者を探索

**\* 濃厚接触者の行動制限でさらなる感染拡大を防ぐ**

同居家族は感染することが多く、通勤、通学、通所サービス利用を控えることで、新たな広がりを防ぐことはできたと考える。

当初、濃厚接触者の外出自粛要請は14日間であり、その間の社会的保障もないなかで、外出自粛を強制ではなく、社会への感染拡大を防ぐために「お願い」をすることの理解を求めるのは苦しかった。行政の言う通りに協力してくれる方は自粛し、患者自身が名前を出さない方や依頼しても協力しない方がいるなかで、どれだけ感染拡大に効果があったのか、人々の生活の犠牲と比較しても効果的だったと言えるのか　　いつも自問自答していた

# オミクロン株の特性に応じてシフトチェンジ

- 潜伏期間が短く感染スピードが速く爆発的に感染拡大
- 一方、死亡、重症化につながりにくい



- ハイリスク者に保健所の関与を重点化
- 一方、保健所が関与しない方をただ放置するわけにはいかない。安心して療養できる**仕組みづくり**が重要

- ・これまでのように、陽性者全員一律に、職員が電話で連絡する体制を見直し、ハイリスク者、体調不良者に迅速に、適切に対応するための仕組みづくり
- ・保健所職員がラクになるための仕組みではない！！
- ・保健師活動に共通する考え方「支援を要する市民」を見つけ出し、迅速に適切な支援を受けられるような仕組みづくり

- ・ 高齢者（65歳以上）
- ・ 基礎疾患がある方
- ・ 妊婦
- ・ 子ども（小学生以下）

かかりつけ医  
発熱外来

発生届対象者  
(重症化リスクあり)

保健所による  
療養支援

- 療養方法の判定及び調整  
(入院・宿泊療養・自宅療養)
- 自宅療養者の健康観察

保健所  
委託管理担当

担当班に引き継ぎ

上記以外

抗原検査  
キットによる  
自己検査

陽性者登録センター  
に登録

発生届対象外

患者自身による  
自宅療養

自宅療養を支える体制

体調悪化時に電話相談  
陽性者サポートセンター（委託）

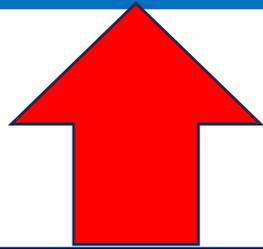
健康観察ツール  
<こびまるライト>

療養中の情報収集  
<療養ナビ>

委託先から保健所委託管理担当  
に相談・引き継ぎ

# セルフケアによる自宅療養を支える体制整備

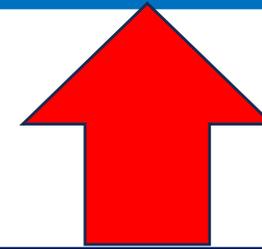
## 体調悪化時に電話相談 <陽性者サポートセンター> (委託)



### 健康観察ツール <こびまるライト>

#### 患者自らがサイトで健康観察

- ・毎日サイトにアクセスし健康状態を入力（体温、呼吸苦など）
- ・判定結果が赤、黄、緑で表示
- ・赤判定の方や体調に不安のある方は陽性者サポートセンターに連絡するようメッセージを表示



### 療養中の情報収集 <療養ナビ>

#### 患者自らが情報を収集し選択

- ・療養期間の過ごし方
- ・ツールを用いた健康観察方法
- ・体調不良時のセルフケアの方法や陽性者サポートセンターの案内
- ・体調不良時の相談先
- ・濃厚接触者の生活や検査

## ○ 3月末に方針が決まり「5月1日に開設せよ！」

- ・ 委託管理者（担当班）を急遽担当することになった
- ・ 4月1日に専任職員2名（保健師） 応援職員3名（事務職）の開設プロジェクト設置
- ・ 委託先の選定が難航
- ・ 予算獲得、契約方針伺い、委託契約事務に事務職が大活躍
- ・ 受託者は短期間で、人集め、事務室確保、執務環境の整備、システム調整を仕様書通りに遂行
- ・ オペレーターや看護師への研修

並行して

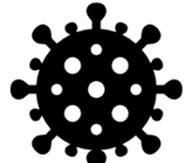
- ・ 医師、大学関係者など有識者ととも「こびまるライト」の仕様検討
- ・ ハイリスク者とセルフケア対象者の判定要件の検討

# 陽性者サポートセンター開設の苦勞

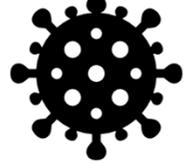
- 体調不良者は陽性者サポートセンターに相談  
オペレーターが聞き取り内容により看護師につなぐ。  
看護師は電話による聴き取りで重症度を判断し、セルフケアでよいか、保健所による医療調整につなげるべきかを判断する
- 委託先のオペレーターや看護師が重篤な患者を見逃さないよう、聴き取り項目やポイント、最近の傾向などを保健師が適宜指導

# 保健師の保健活動の基本的な方向性

1 地域診断に基づくPDCAサイクルの実施



2 個別課題から地域課題への視点及び活動の展開



3 予防的介入の重視

4 地区活動に立脚した活動の強化

5 地区担当制の推進

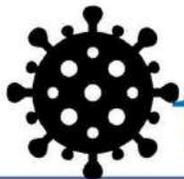
6 地域特性に応じた健康なまちづくりの推進



7 部署横断的な保健活動の連携及び協働

8 地域のケアシステムの構築

9 各種保健医療福祉計画の策定及び実施



10 人材育成